

道しるべ

飯倉新田を歩く

市内にも、江戸時代に道路脇や寺院、墓地などに立てられた数基の道標(道しるべ)が残されています。

飯倉新田区(豊栄地区)の集落を走る道路沿い、母子(横芝光町)の子安神社近くの共同墓地にある個人の墓所に道標があります。

この供養塔を兼ねた道標は高さ約130cmで、正面に地藏菩薩(どうは)が浮き彫りされ「西とう金(東金) はにや(埴谷・山武市) 江戸道」、右側面に「かわ道 かやた(栢田・栄地区) はま道」とあり南方面の高野、蕪里(須賀地区)への道が当時、「川道」



供養塔を兼ねた道標。個人の墓所にあり、四面に道案内が刻まれている

「浜道」と呼ばれていたことが知られます。左側面には「北 まつ山(松山) いいたか(飯高) 中村(多古町)」、裏面には「東 八日市ハ(八日市場) をみ川(小見川・香取市) てうし(銚子) 道」とあります。造立された1776(安永5)年当時、飯倉新田から四方に広がる道の方向が浜道、江戸道、銚子道などと人々が使っていた呼び名が刻まれていることも貴重です。造立者は飯倉村の人で、墓塔の正面に刻まれた文字から1770(明和7)年12月12日に亡くなったとみられる親子と先祖代々の供養のため、

そして人の道案内によって功德が得られると考えて立てたのでしよう。

造立当初は道端にあったように、道路改修などの際に造立者の墓地に移されたのかも知れません。

この他、代表的な道標は県道45号(八日市場八街線)沿いの飯倉地先に1800(寛政12)年に立てられたものがあります。これは飯倉村台谷の若者講中が「郷中安穩」を祈願しまつた庚申塔で、その下部に東西南北の方向の地名が刻まれ、これにも江戸道、浜道とあります。

また、木積(豊栄地区)の龍頭寺境内に移されたと思われる1793(寛政5)年の道標には弘法大師像が浮き彫りされ、大師の命日・21日に立てられました。

同様に、大師像が浮き彫りされたものは樅区(樅海地区)仲新久にもあり、「馬持中」が願主となっていることから、当時荷馬車を使い運送を行っていた人たちが立てたのでしよう。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

関秘書課広報広聴班

☎73・0080